



長い歴史と伝統の技に培われてきた、大牟田市を代表するまつり「大蛇山」。

今年も大蛇山が勇壮な姿で練り歩き、来場者に興奮と感動を与えました。その製作過程はあまり知られていません。匠の技と伝統を守る祇園六山の男衆に話を聞きました。

大蛇山を形取っている主な材料は竹、ワラ、紙の三つだけです。孟宗竹と真竹、それぞれの特徴を活かし骨組みを作り上げ、わらと紙で形を整えます。作業行程はほぼ同じですが、それぞれの山のこだわりと光る伝統の技を紹介します。

匠の技

伝統の技が光る大蛇山の製作現場

連載
おおむた自慢



三池藩大蛇山三池新町彌劔神社

雌山らしくあえて鮮やかな緑色を強調している。よく見ると歯の形も前歯は弓歯だがほかの歯は三角歯というのも雌山の特徴。細長い女性らしい輪郭ながらも大蛇山の勇壮さは損なわれていないところに匠の技が光る。【地図B】



三池祇園宮

先代の作り手から現在の四十代を中心とした作り手に代わり数余年。後頭部と頭、眉間の三つの「こぶ」の大きさや位置、朱、黒、緑の三色に限った色使いという二つの伝統だけは頑なに守りつつ、若い感覚で雄山らしい、にらみを利かせた表情づくりに取り組んでいる。【地図A】

まつり終了後はどの山でも山崩しが行われます。大蛇(龍)は天上に昇ってしまつので、地に留まらなければならない。その日のうちに崩す習わしというところや、語り手が山崩しの準備中、子供たちに大蛇山の歴史や伝統を守ることの大切さを伝える山若い衆で感謝の気持ちを込めながら解体することや、子供たちだけで山崩しを行い、それぞれ手にしたかけらは家に持ち帰る山などやり方はさまざま。しかし伝統を守り受け継いでいくという思いと感謝の心はどの山にも共通しており、大蛇山を通して、大牟田市の将来を担う子供たちに伝えられています。

各山で継承されている思いと「匠の技」は、また来年の夏も魅了してくれることでしょう。



大牟田神社第二区祇園

唯一、大蛇山の口に「宝珠」を持つ。上あごと下あごの激しい動きが見所のひとつでもあるが、これを支えるのは長年培われた技術。深い緑色で雄々しい顔つきと動きの激しさは雄山ならではの見所である。【地図D】



本宮彌劔神社

祇園の伝統をしつかりと守り受け継ぐことにより、自信と誇りをもって製作に当たるといふと、若い世代の作り手を厳しく指導。色合いは緑に黒を混ぜた重みのある昔ながらの手法で、雌山らしくやさしさの中にも勇ましさを演出する工夫も怠らない。【地図C】



諏訪神社

男大蛇と呼ばれているこの山は製作を非公開としており、まつり本番の日までその姿を見ることはできない。大きさは六山の中でも随一で左右に揺れるその姿はダイナミック。色合いは深緑をベースとしているが、十年に一度は白大蛇となる。次回は四年後(平成二十九年)に製作される。【地図F】



三区八剣神社

深い緑色が基調だがブルーの色鮮やかさが目を引く。首からあごのラインの美しさは雌山らしく、沼から出てきたばかりの臨場感も表現。また節目の年などは特別に黄色に輝く金大蛇となることでも知られており、現在のところその姿を見ることのできるのは三年後(平成二十八年)の予定。【地図E】

編集後記

議会だよりを作成して2年が過ぎました。市民の皆様からいろいろなご指導と評価を受けながら編集委員一同、一生懸命頑張っているところです。これからも暖かいご声援をいただければ幸いです。(Y)

■編集 議会報編集委員会

【委員長】吉田康孝 【副委員長】北岡あや

【委員】大野哲也 平嶋慶二 森 竜子

■発行 大牟田市議会

〒836-8666 福岡県大牟田市有明町2丁目3番地

TEL 0944-41-2800 FAX 0944-41-2880

E-mail gikaijimu01@city.omuta.lg.jp